

# 忠岡町の概況

令和 2 年 6 月



## □ ■ 目次 ■ □

<b>1</b>	<b>地域特性</b> .....	<b>1</b>
	(1)位置と地勢.....	1
<b>2</b>	<b>人口減少・超高齢社会の進展状況</b> .....	<b>2</b>
	(1)人口ピラミッド.....	2
	(2)総人口の推移.....	2
	(3)3区分別人口構成比の推移.....	3
	(4)人口推計.....	4
<b>3</b>	<b>世帯の状況</b> .....	<b>6</b>
	(1)総世帯数と世帯人員.....	6
	(2)高齢者世帯の状況.....	6
	(3)子どものいる世帯の状況.....	7
<b>4</b>	<b>出生・死亡の状況</b> .....	<b>8</b>
	(1)出生数と死亡数.....	8
	(2)周辺自治体の出生数の変化率.....	9
	(3)平均寿命.....	10
<b>5</b>	<b>転入・転出の状況</b> .....	<b>11</b>
	(1)転入者数と転出者数.....	11
	(2)年齢階級別人口移動変動数.....	12
	(3)他市町村からの転入.....	13
	(4)他市町村への転出.....	13
	(5)周辺自治体の転出入の状況.....	14
	(6)外国人居住者.....	15
	(7)住民の定住意向.....	16
	(8)周辺自治体との定住意向の比較.....	17
<b>6</b>	<b>都市基盤</b> .....	<b>19</b>
	(1)忠岡駅の乗降者数.....	19
	(2)駅前自転車駐輪場の利用状況.....	19
	(3)福祉バスの利用状況.....	20
	(4)空き家等の実態.....	20
	(5)新設住宅着工数の推移.....	21
	(6)ごみの排出量.....	21
<b>7</b>	<b>通勤・通学の状況</b> .....	<b>22</b>
	(1)忠岡町在住の通勤・通学者の通勤・通学先.....	22
	(2)忠岡町に通勤・通学してる人の居住地.....	22

<b>8 産業・商業の状況</b> .....	<b>23</b>
(1) 産業別就業者数の割合 .....	23
(2) 農業産出額 .....	23
(3) 製造品出荷額 .....	24
(4) 製造業における労働生産性特化係数 .....	25
(5) 年間商品販売額 .....	26
<b>9 子育て・教育</b> .....	<b>27</b>
(1) 幼児教育・保育提供施設 .....	27
(2) 教育施設の生徒数 .....	28
(3) 教育水準 .....	28
<b>10 高齢者福祉</b> .....	<b>29</b>
(1) 周辺自治体の高齢者の状況 .....	29
(2) 要支援・要介護認定者の状況 .....	30
(3) 医療・介護施設等 .....	31
(4) 趣味・生きがい .....	31

# 1 地域特性

## (1) 位置と地勢

本町は、大阪府の西南部、大阪湾に面する平野部に位置し、北東部は大津川と牛滝川を境に和泉市、泉大津市に、南部は岸和田市に接しています。

まちは東西に約5km、南北に約1kmで、町域は全て市街化区域となっており、面積は3.97km<sup>2</sup>と全国の町で一番面積の小さい自治体となっています。

土地利用は、臨海部は木材コンビナートや下水処理場が埋め立てにより造成されており、この臨海部と北部は工業地、その他は住宅と中小工場が混在しています。

鉄道は南海本線（空港線）が南北方向に通っており、町のほぼ中心部に忠岡駅が設置され、大阪都心部までは南海本線（空港線）で約30分、関西国際空港までも南海本線（空港線）で約30分と、利便性の高い場所に位置しています。

道路は、南北方向に阪神高速4号湾岸線、府道臨海線、国道26号線などが、東西方向に府道田治米忠岡（たじめただおか）線と町道中央線が通っています。

国勢調査によると、昼夜間人口比率（昼間人口／総人口）が94.0%となっており、ベッドタウン的な性格があります。

図表 昼夜間人口比率

H27人口	当地に常住する就業者・通学者数	当地で従業・通学する就業者・通学者数	昼間人口	昼夜間人口比率
A	B	C	D=A-B+C	D/A
17,298	8,139	7,093	16,252	94.0%

出典：総務省「国勢調査」

### <第6次忠岡町総合計画の策定に関する住民ワークショップの着目点>

ワークショップを通してでてきた、忠岡町のイメージについて、代表的なものを抜粋して掲載しています。

#### 【町の好きなところ】

住みやすい／町がコンパクト／ほどよく都会／静かで、夜騒がしくない／空が綺麗／車がなくても生活できる／他の駅とのアクセスが良い／だんじり祭り

#### 【町の困っているところ】

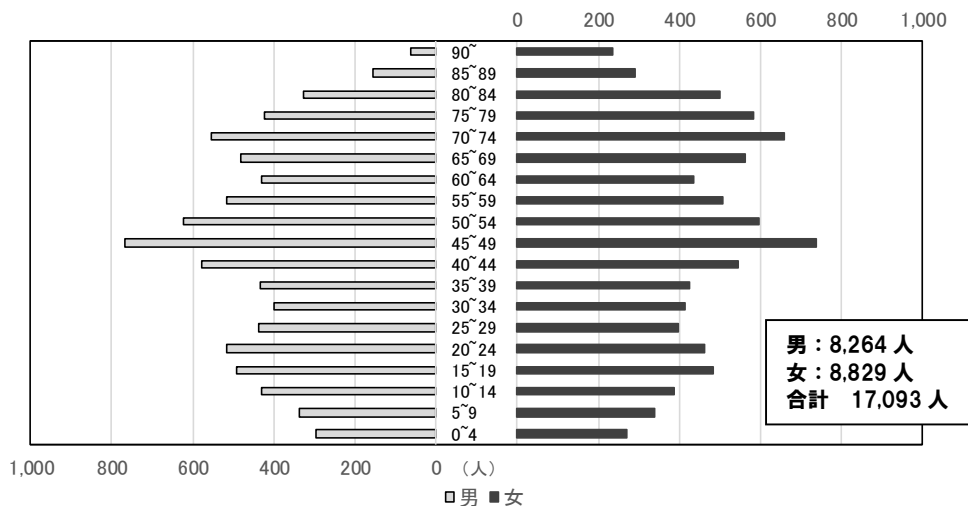
道が狭い／買い物する場がない／みんなが集まれる場所がない／民間のバスが無い／昔から住む住民と新しい住民との心理的な距離がある

## 2 人口減少・超高齢社会の進展状況

### (1) 人口ピラミッド

人口ボリュームを持つ世代が、2020年（令和2年）1月末時点で45歳前後となっています。次いで70歳前後、20歳前後が男女共に多くなっています。

図表 人口ピラミッド（2020年（令和2年）1月末時点）

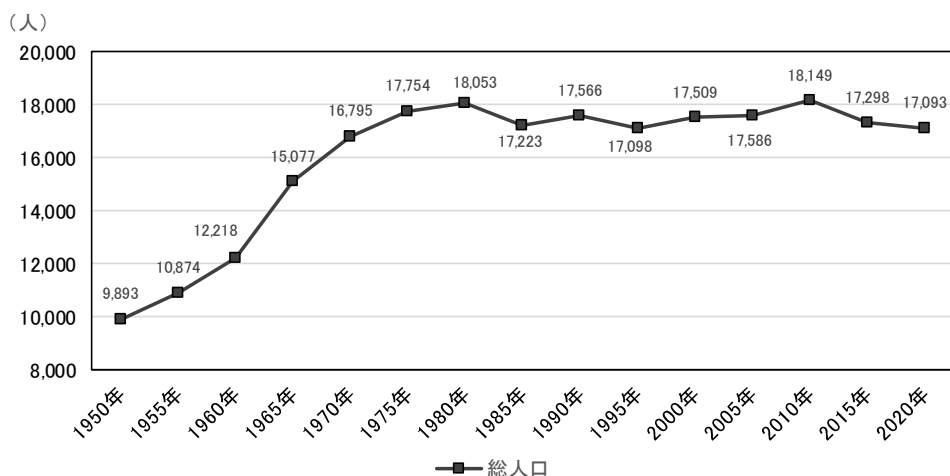


出典：忠岡町「住民基本台帳（2020年（令和2年）1月末時点）」

### (2) 総人口の推移

国勢調査では2010年（平成22年）の18,149人が人口のピークとなっており、それ以降減少が続いています。

図表 総人口の推移

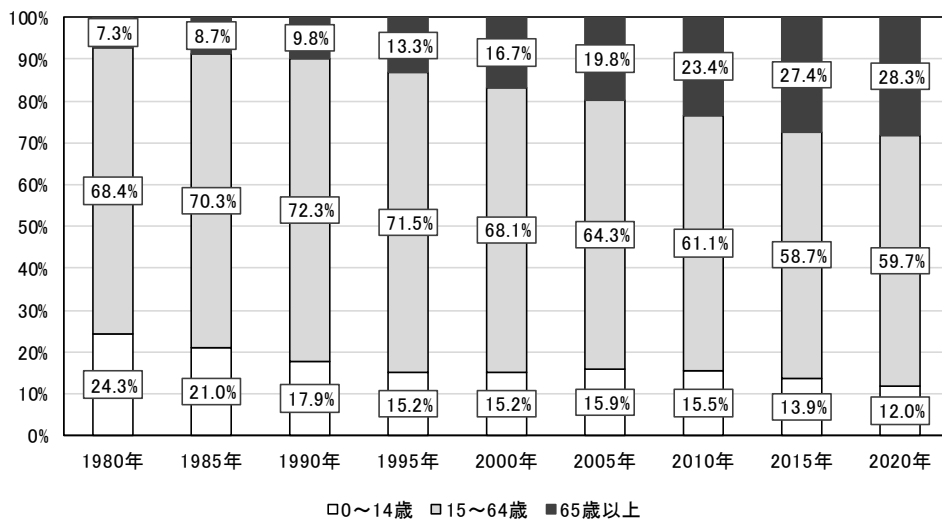


出典：総務省「国勢調査」 1950年から2015年（昭和25年から平成27年）  
忠岡町「住民基本台帳」 2020年（令和2年）1月末時点

### (3) 3区分別人口構成比の推移

人口ピーク時の2010年（平成22年）時点では、年少人口が15.5%、生産年齢人口が58.7%、高齢人口が27.4%となっています。老年人口割合（65歳以上人口の割合）は一貫して増加傾向にあります。

図表 3区分別人口構成比の推移



出典：総務省「国勢調査」 1950年から2015年（昭和25年から平成27年）  
忠岡町「住民基本台帳」 2020年（令和2年）1月末時点

#### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

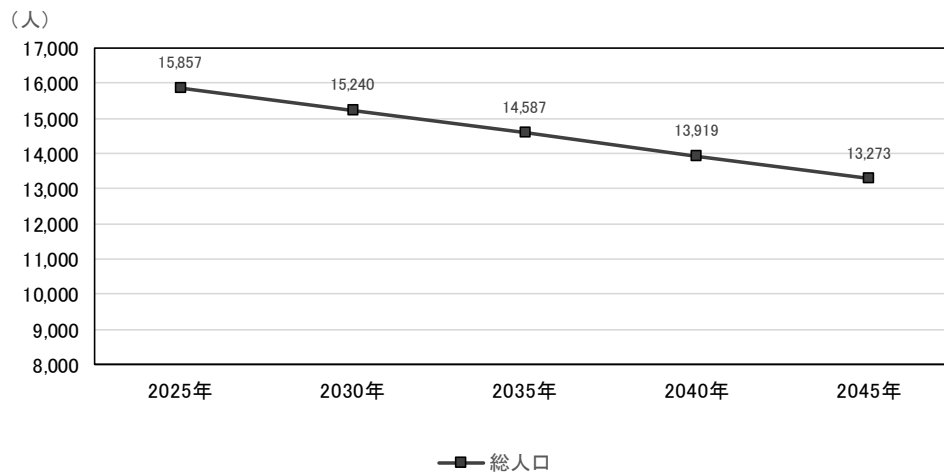
人口減少の対策として力を入れるべき取組は何ですかという設問に対して、「結婚・出産・子育てに対する一貫した支援サービスの充実」と回答した人が最も多く35.6%となっています。次いで、「税金や公共サービス利用料金の減額などによる経済的負担の軽減」と答えた方が34.7%、「医療費の助成といった地域医療や各種福祉サービスの充実」と答えた方が34.0%となっています。

## (4) 人口推計

国勢調査の結果を基に実施された人口推計によると、2025年の15,857人から一貫して減少し、2045年には13,273人になると推計されています。

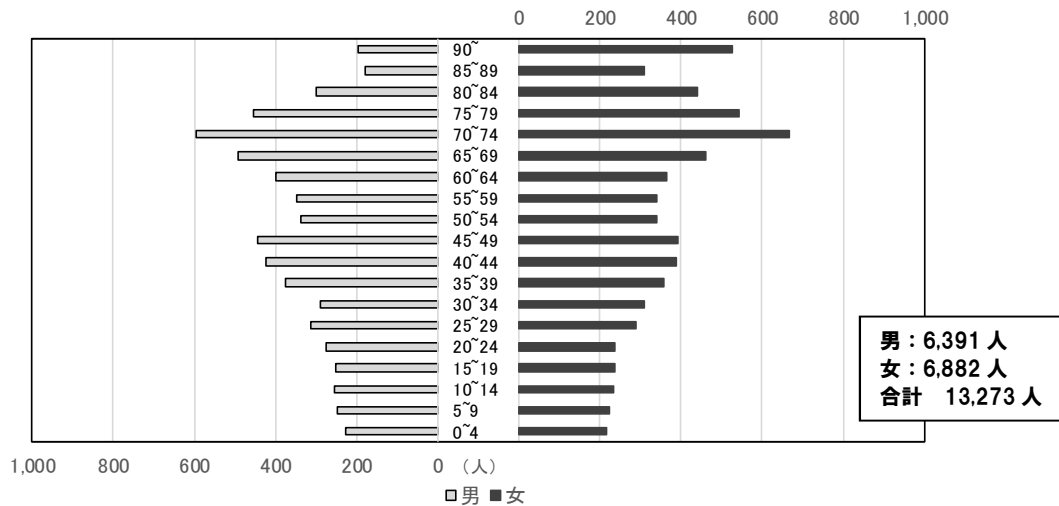
また、3区分別人口構成比の推計を見ると、年少人口割合（0～14歳人口の割合）は10.6%、生産年齢人口割合（15～64歳人口の割合）は50.6%まで減少する一方で、老年人口割合（65歳以上人口の割合）は38.8%まで増加する見込みとなっています。

図表 人口推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」 2018年（平成30年）推計

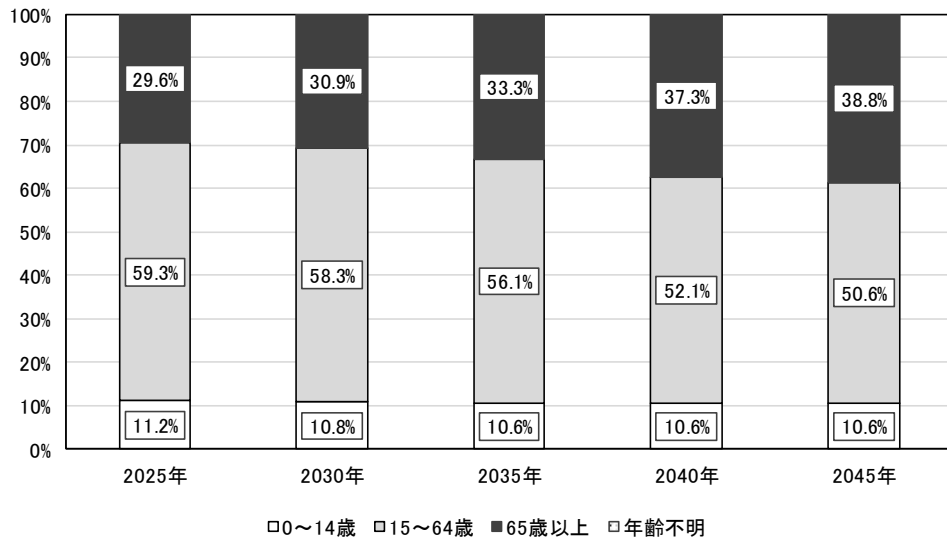
図表 人口ピラミッド（2045年時点）



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」 2018年（平成30年）推計



図表 3 区分別人口構成比の推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」 2018年（平成30年）推計

<第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

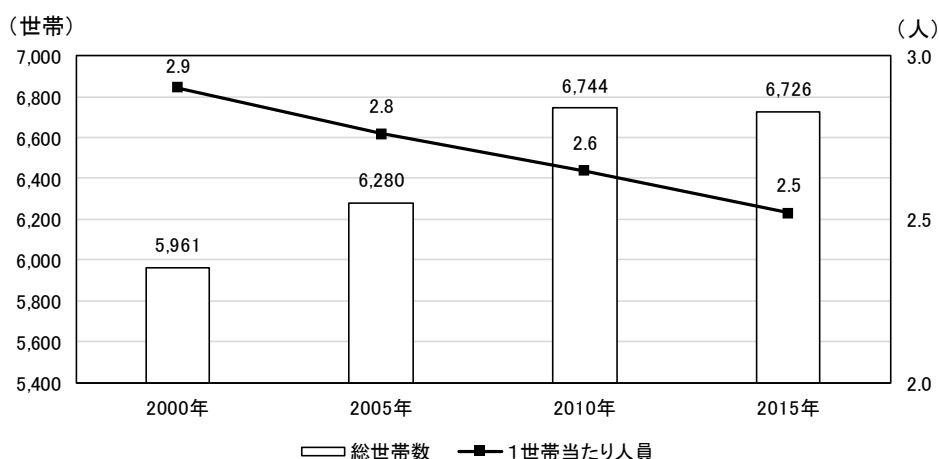
将来の忠岡町の望ましい姿は何ですかという設問に対して、「保険や医療体制などが充実し子供からお年寄りまで安心して暮らせる」と回答した人が最も多く56.6%となっています。次いで、「交通事故や犯罪、災害のない、安全で安心して暮らせる」と答えた方が36.3%、「子育てがしやすく教育環境が整い子どもが伸び伸びと成長できる」と答えた方が29.8%となっています。

### 3 世帯の状況

#### (1) 総世帯数と世帯人員

総世帯数は2000年（平成12年）から2010年（平成22年）にかけて増加していましたが、2015年（平成27年）にかけて減少し、6,726世帯となっています。世帯人員は一貫して減少しており、2015年（平成27年）は2.5人となっています。

図表 総世帯数と世帯人員

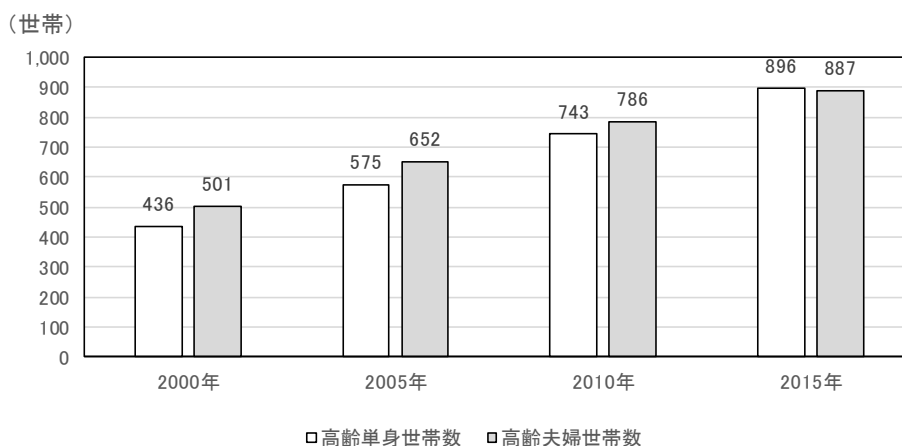


出典：総務省「国勢調査」

#### (2) 高齢者世帯の状況

高齢者世帯は、単身世帯・夫婦世帯共に増加し、2015年（平成27年）には単身世帯数が896世帯、夫婦世帯数が887世帯となっています。

図表 高齢者世帯の状況

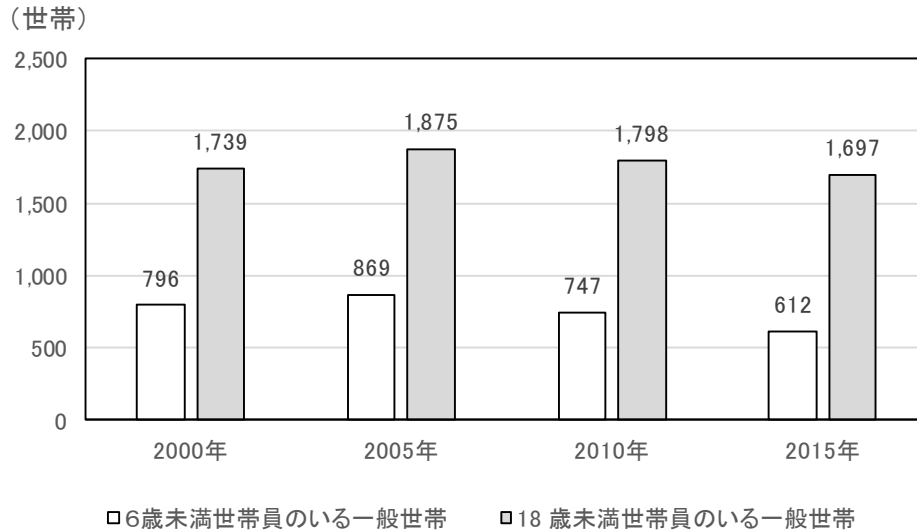


出典：総務省「国勢調査」

### (3) 子どものいる世帯の状況

子どものいる世帯は、6歳未満世帯員のいる一般世帯、18歳未満世帯員のいる一般世帯共に、おおむね減少傾向にあります。2015年（平成27年）には6歳未満世帯員のいる一般世帯が612世帯、18歳未満世帯員のいる一般世帯が1,697世帯となっています。

図表 子どものいる世帯の状況



出典：総務省「国勢調査」

#### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

災害時の備えや行動について重要だと思うこととしては、「自助」を重要と考える方が83.6%、「公助」が75.5%、「互助」が68.9%となっています。

また、地域での暮らしの中で今後「手助けしたい」もしくは「手助けしてほしい」と思うことについては、手助けしたいでは「話し相手」が最も多く31.2%、次いで「ひとり暮らしの高齢者などの見守り」が30.6%、「災害発生時の避難所への移動」が29.8%となっています。

手助けしてほしいでは「簡単な家の修理や掃除や庭の草刈りなどの手伝い」が最も多く16.5%、次いで「病気など緊急時の看病や医者を呼ぶなどの手助け」と「災害発生時の避難所への移動」が12.7%となっています。

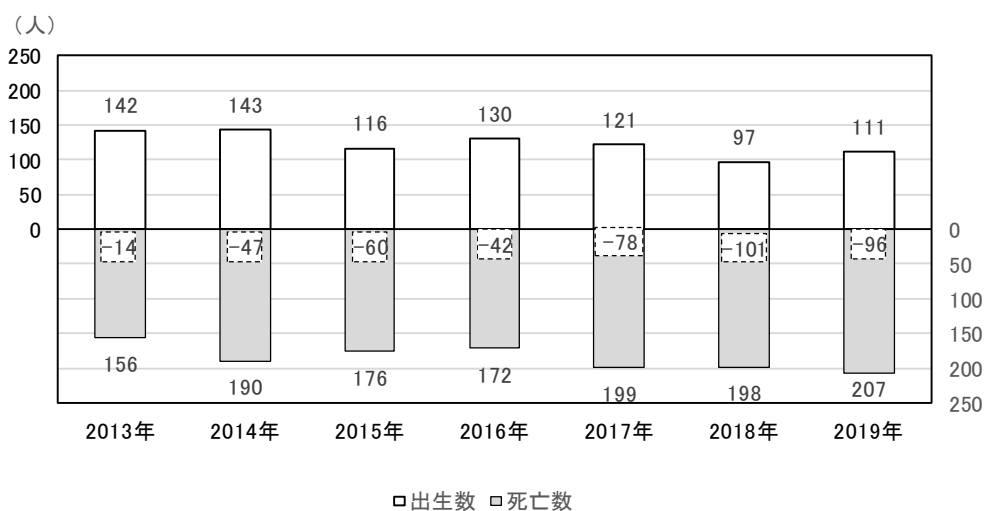
## 4 出生・死亡の状況

### (1) 出生数と死亡数

出生数はおおむね減少傾向にあり、2013年（平成25年）の142人から2019年（令和元年）には111人まで減少しています。死亡数はおおむね増加傾向にあり、2013年（平成25年）の156人から2019年（令和元年）には207人まで増加しています。

自然動態（出生数－死亡数）を見ると、2013年（平成25年）から2019年（令和元年）まで一貫してマイナスとなっています。

図表 出生数と死亡数



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」各年1月1日

#### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

少子化抑止として力を入れるべき取組は何ですかという設問に対して、「学童保育の要件緩和やファミリーサポート事業の実現」と回答した人が最も多く45.3%となっています。次いで、「安定した雇用の創出による経済的な安定の確保」と答えた方が33.8%、「妊娠・出産等における切れ目のない支援提供する為の体制の整備」と答えた方が29.1%となっています。

## (2) 周辺自治体の出生数の変化率

忠岡町の出生数をみると、2014年から2016年の平均出生数に対して、2017年から2019年の平均出生数は84.6%となっています。

また、泉州地域全体で見ると、忠岡町は2番目に低くなっています。

図表 周辺自治体の出生数の変化率

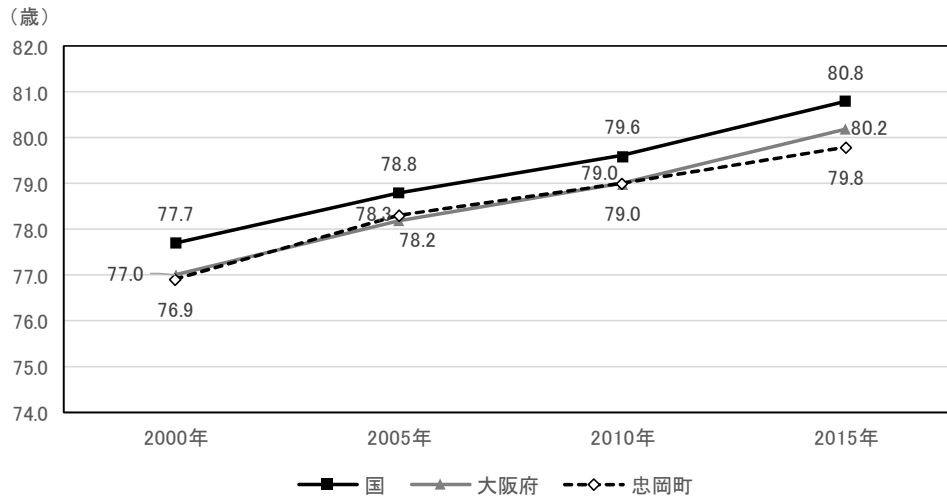
	熊取町	田尻町	岬町	泉大津市	高石市	堺市	泉佐野市	岸和田市	和泉市	貝塚市	泉南市	忠岡町	阪南市
2014年(人)	297	58	72	658	494	7,091	774	1,717	1,549	724	528	143	369
2015年(人)	292	50	64	635	453	6,920	730	1,640	1,446	698	472	116	375
2016年(人)	281	72	69	651	481	7,100	797	1,596	1,416	730	543	130	330
2017年(人)	316	50	73	648	441	6,945	721	1,500	1,337	660	443	121	306
2018年(人)	289	71	66	614	489	6,459	707	1,579	1,298	640	463	97	301
2019年(人)	286	62	58	579	414	6,346	695	1,385	1,247	589	420	111	294
出生数変化率 (2017-2019年) /(2014-2016年)	102.4%	101.7%	96.1%	94.7%	94.1%	93.6%	92.3%	90.1%	88.0%	87.8%	85.9%	84.6%	83.9%

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」 各年1月1日

### (3) 平均寿命

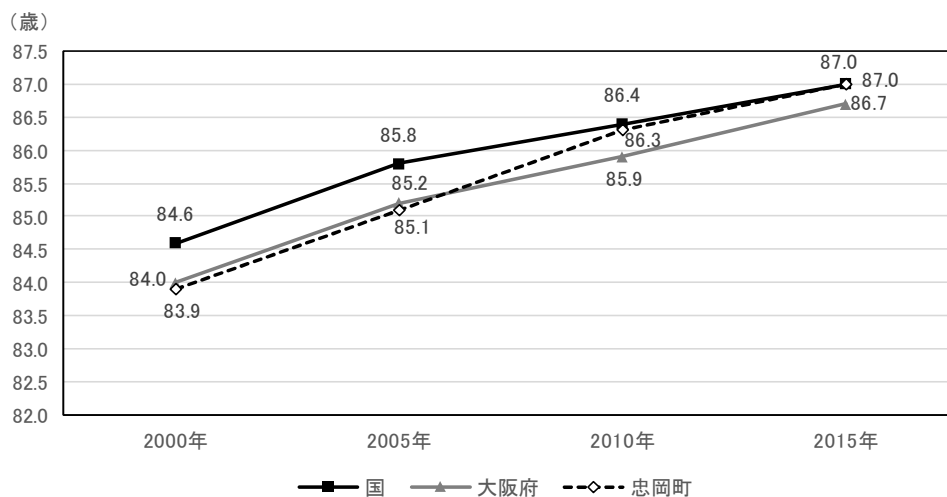
男性の平均寿命は一貫して上昇しているものの、国や大阪府よりも低い傾向にあります。2015年（平成27年）時点で、男性は国よりも1.0歳低く、大阪府よりも0.4歳低くなっています。女性の平均寿命も一貫して上昇しており、2015年（平成27年）では全国と並び87.0歳となっています。また、大阪府より0.3歳高くなっています。

図表 平均寿命（男性）



出典：人口動態保健所「市区町村別統計」

図表 平均寿命（女性）



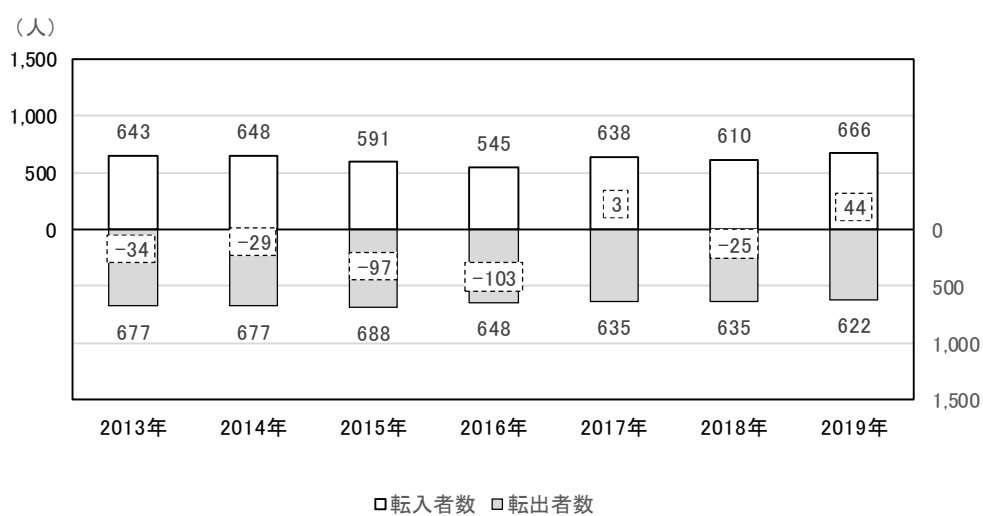
出典：人口動態保健所「市区町村別統計」

## 5 転入・転出の状況

### (1) 転入者数と転出者数

転入者数はおおむね横ばいで推移しており、2019年（令和元年）が666人となっています。転出者数は減少傾向にあり、2013年（平成25年）の677人から2019年は622人となっています。社会動態（転入者数－転出者数）を見ると、2017年（平成29年）と2019年（令和元年）がプラスとなっており、そのほかはマイナスとなっています。

図表 転入者数と転出者数



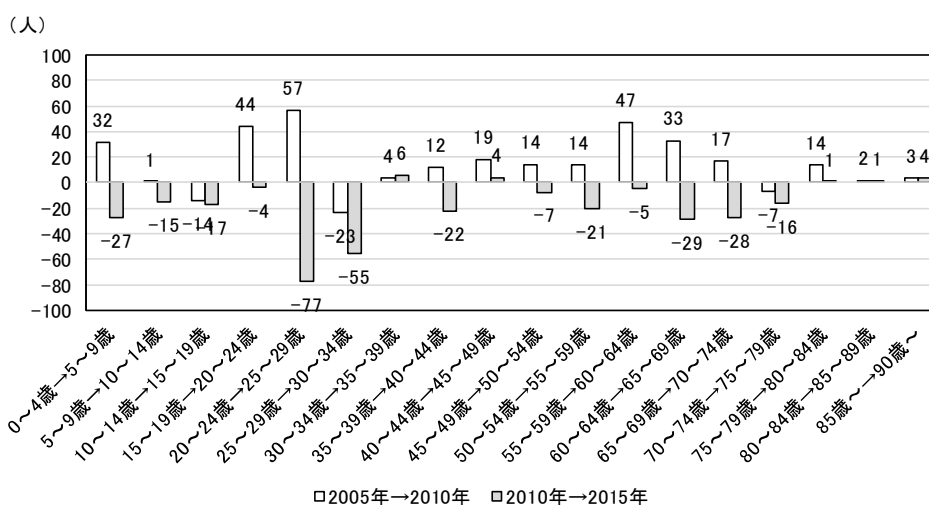
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」各年1月1日

## (2) 年齢階級別人口移動変動数

男性は、2005年（平成17年）→2010年（平成22年）にかけて全体的に増加傾向で、20代の増加が大きくなっていましたが、2010年（平成22年）→2015年（平成27年）にかけては20代から30代前半の減少が大きくなっています。

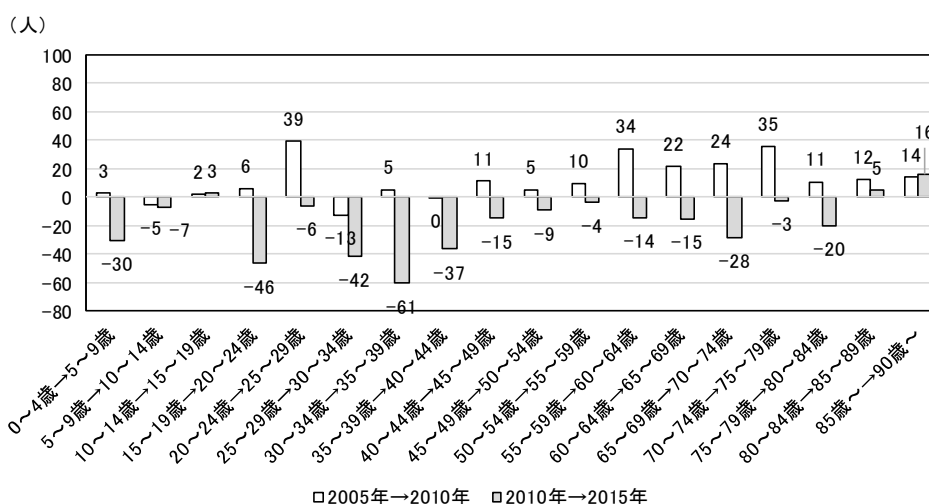
女性は、2005年（平成17年）→2010年（平成22年）にかけて全体的に増加傾向でしたが、2010年（平成22年）→2015年（平成27年）にかけては減少傾向となっています。2010年（平成22年）→2015年（平成27年）にかけては、10代後半から20代前半における減少が大きく、10代と80代以上では一部増加が見られます。

図表 年齢階級別人口移動変動数（男性）



出典：総務省「国勢調査」

図表 年齢階級別人口移動変動数（女性）



出典：総務省「国勢調査」

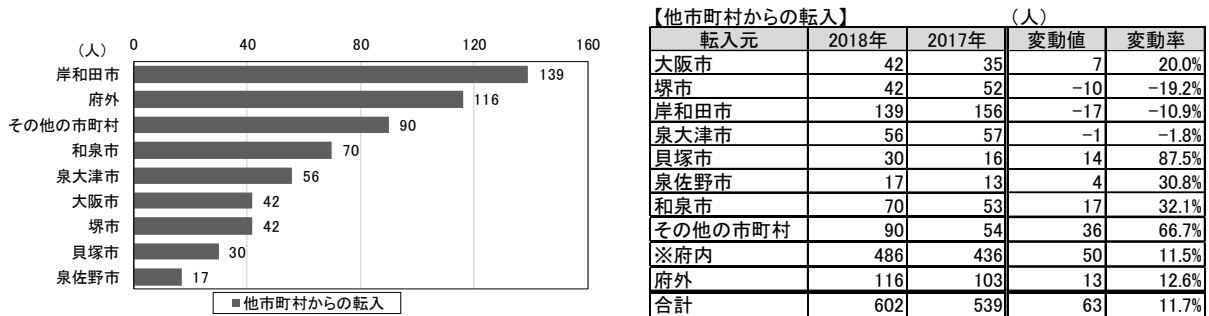


### (3) 他市町村からの転入

2018年（平成30年）の転入の状況を見ると、転入元としては岸和田市が最も多く、次いで府外となっています。

2017年（平成29年）と比較すると、貝塚市、和泉市、泉佐野市、その他の市町村からの転入が増加している一方、堺市、岸和田市からの転入は減少しています。

図表 他市町村からの転入の状況



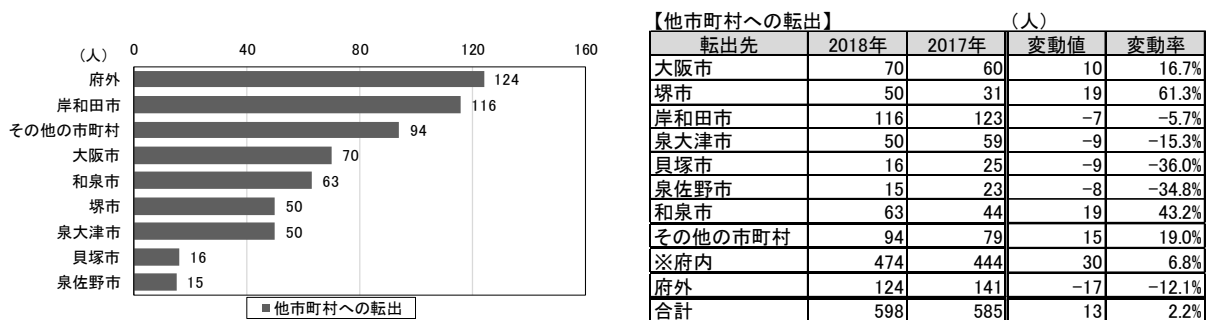
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

### (4) 他市町村への転出

2018年（平成30年）の転出の状況を見ると、転出先としては府外が最も多く、次いで岸和田市となっています。

2017年（平成29年）と比較すると、堺市、和泉市への転出が増加している一方、貝塚市、泉佐野市への転出は減少しています。

図表 他市町村への転出の状況

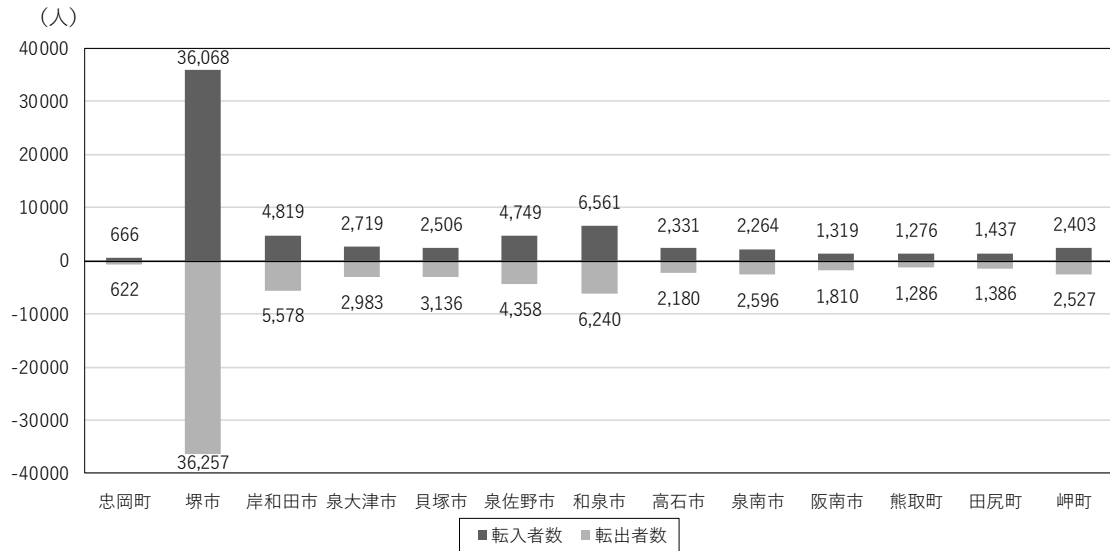


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## (5) 周辺自治体の転出入の状況

2018年（平成30年）における周辺自治体の転出入の状況は、忠岡町、泉佐野市、和泉市、高石市、田尻町で転入超過となっていますが、その他は転出超過となっています。

図表 周辺自治体の転出入の状況



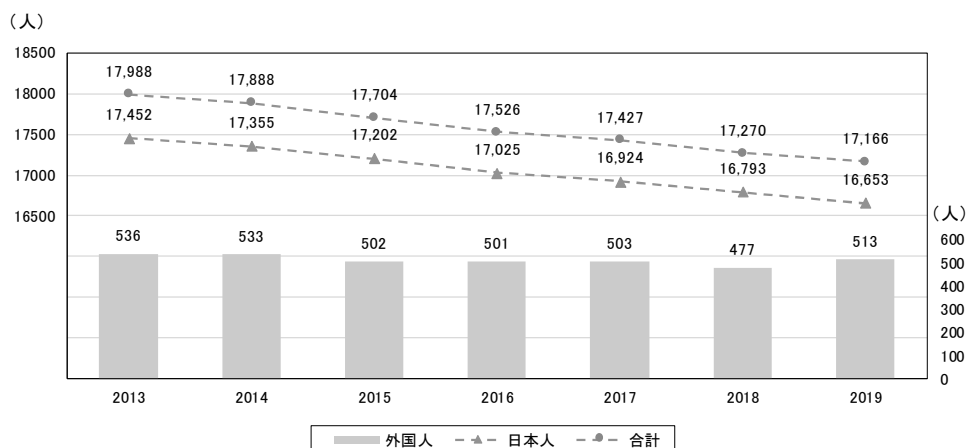
	忠岡町	堺市	岸和田市	泉大津市	貝塚市	泉佐野市	和泉市	高石市
転入-転出	44	-189	-759	-264	-630	391	321	151
転入総数	666	36,068	4,819	2,719	2,506	4,749	6,561	2,331
転出総数	622	36,257	5,578	2,983	3,136	4,358	6,240	2,180

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」 2018年（平成30年）

## (6) 外国人居住者

本町の外国人居住者はおおむね 500 人前後を推移しており、2019 年（平成 31 年）では 513 人となっています。近年の在住外国人の国籍については、韓国が最も多く、次いでブラジル、インドネシア、中国、ベトナム、タイとなっています。

図 近年の総人口の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」各年 1 月 1 日時点

周辺自治体の総人口と総世帯における外国人の割合を見ると、忠岡町は総人口における外国人の割合と、世帯数における外国人世帯の割合でそれぞれ 1 番目に高くなっています。

図表 周辺自治体の総人口と総世帯における外国人の割合

	忠岡町	泉佐野市	田尻町	泉大津市	堺市	和泉市	岬町	泉南市	岸和田市	貝塚市	高石市	阪南市	熊取町	泉州地域
総人口における外国人の割合	3.0%	1.9%	1.7%	1.7%	1.7%	1.3%	1.2%	1.2%	1.2%	1.0%	0.9%	0.6%	0.6%	1.5%
世帯数における外国人世帯の割合	4.0%	2.8%	2.6%	2.1%	2.0%	1.7%	1.7%	1.6%	1.6%	1.2%	1.1%	0.6%	0.9%	1.8%

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」2019 年（平成 31 年）1 月 1 日時点

周辺自治体の外国人増加率を見ると、忠岡町は 2015 年に対して 2019 年の外国人在住者が 101%となっており、泉州地域内で一番増加率が低くなっています。

図表 周辺自治体の外国人人口増加率

	岬町	泉佐野市	熊取町	貝塚市	阪南市	岸和田市	泉南市	和泉市	堺市	田尻町	高石市	泉大津市	忠岡町
2015年12月 (人)	102	1,259	183	640	292	2,005	550	2,072	12,631	108	470	1,226	506
2016年12月 (人)	101	1,454	196	703	300	2,127	536	2,137	12,961	117	500	1,240	502
2017年12月 (人)	246	1,706	237	745	319	2,196	685	2,197	13,469	117	514	1,261	481
2018年12月 (人)	152	1,979	280	834	361	2,340	720	2,394	14,381	150	537	1,306	532
2019年6月 (人)	211	2,097	275	923	375	2,540	695	2,543	15,017	123	530	1,366	509
外国人人口増加率 (2019年/2015年)	207%	167%	150%	144%	128%	127%	126%	123%	119%	114%	113%	111%	101%

出典：法務省「在留外国人統計」

一方で、各総数における外国人の割合（5年平均）を見ると、出生者数における外国人の割合では2番目、死亡者数における外国人の割合では1番目、転入者数における外国人の割合では4番目、転出者数における外国人の割合では8番目に高くなっています。

図表 各総数における外国人の割合（5年平均）

	忠岡町	堺市	岸和田市	泉大津市	貝塚市	泉佐野市	和泉市	高石市	泉南市	阪南市	熊取町	田尻町	岬町	泉州地域
出生者	1.6%	1.0%	0.6%	1.0%	0.3%	1.1%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.1%	0.0%	0.9%	0.8%
死亡者	2.8%	0.9%	0.9%	1.6%	0.5%	0.4%	0.9%	0.6%	0.8%	0.4%	0.3%	0.5%	0.6%	0.9%
転入者	12.6%	9.1%	9.7%	6.4%	10.9%	11.8%	7.5%	6.6%	28.7%	3.4%	9.2%	5.6%	77.7%	10.3%
転出者	5.8%	5.8%	6.2%	3.7%	6.6%	5.8%	4.5%	4.2%	22.5%	1.9%	6.8%	4.2%	67.4%	6.9%

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」各年1月1日時点

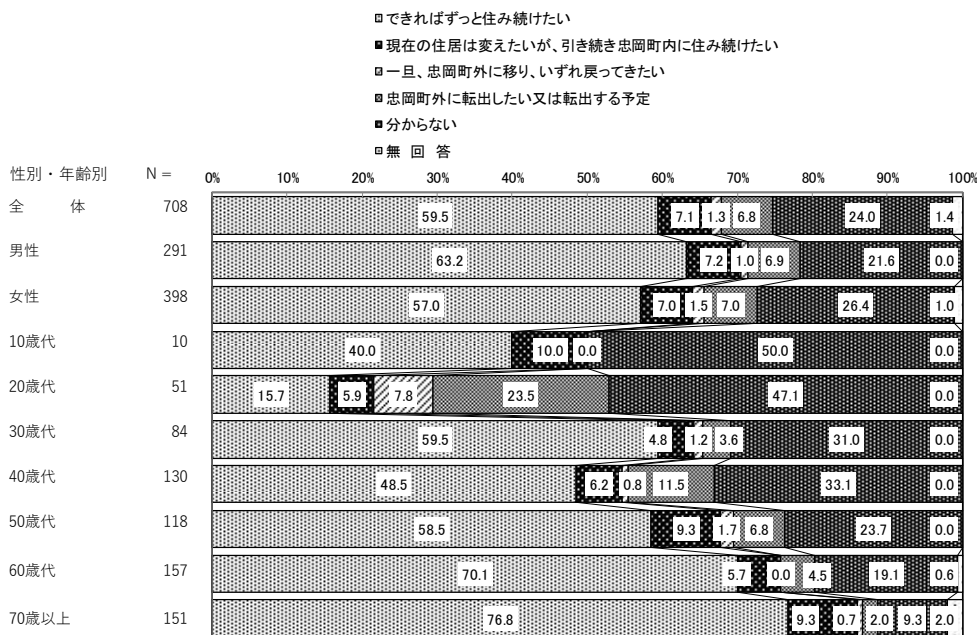
## （7）住民の定住意向

全体では『住み続けたい』（「できればずっと住み続けたい」＋「現在の住居は変えたいが、引き続き忠岡町内に住み続けたい」）が最も多く66.6%となっています。

年代別では「忠岡町外に転出したい又は転出する予定」で20歳代が23.5%と他の年代より多くなっています。

居住地域別では『住み続けたい』（「できればずっと住み続けたい」＋「現在の住居は変えたいが、引き続き忠岡町内に住み続けたい」）で忠岡南が77.3%と他の地域より多くなっています。

図表 町民の定住意向

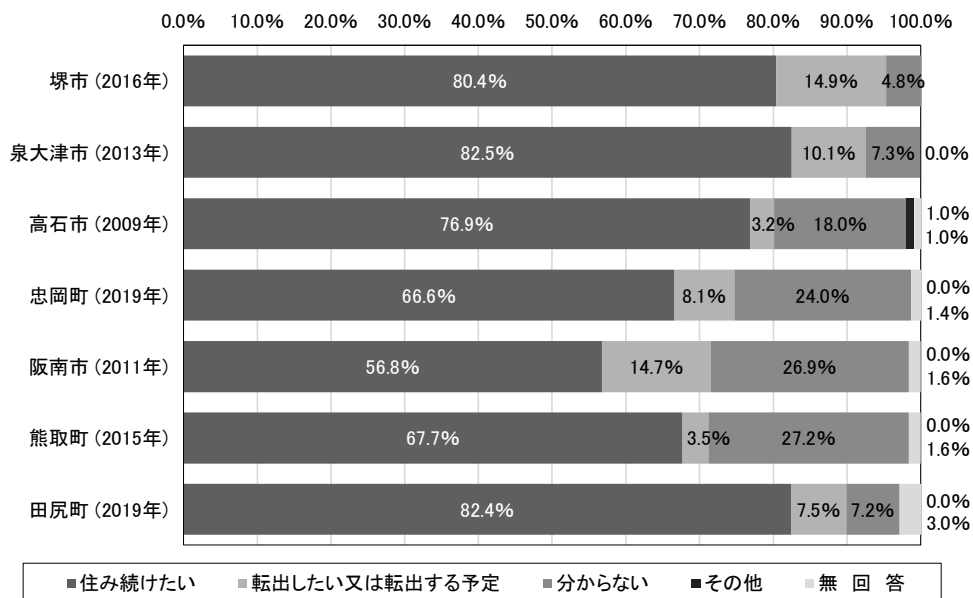


出典：忠岡町「第6次総合計画」の策定に関するアンケート調査 2020年（令和2年）

## (8) 周辺自治体との定住意向の比較

周辺自治体との定住意向の比較を見ると、忠岡町は「住み続けたい」が66.6%となっており、阪南市を除くほかの自治体より低くなっています。

図表 定住意向



※『住み続けたい』には「住み続けたい」のほか、「可能であれば住み続けたい」「一旦転出したいが、いずれ戻ってきたい」などの選択肢をまとめて換算しています。

出典：堺市 「平成28年度市民意識調査」 2016年（平成28年）及び  
 泉大津市 「第4次泉大津市総合計画の策定に向けた市民アンケート調査」 2013年（平成25年）及び  
 高石市 「高石市総合計画策定のための「市民意識調査」」 2009年（平成21年）及び  
 忠岡町 「『第6次総合計画』の策定に関するアンケート調査（住民）」 2019年（令和元年）及び  
 阪南市 「阪南市新総合計画策定に係る住民意識調査」 2011年（平成23年）及び  
 熊取町 「熊取町まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定のためのアンケート調査」 2015年（平成27年）及び  
 田尻町 「第5次田尻町総合計画策定に向けた住民意識調査」 2019年（平成31年）及びより抜粋・加工

＜第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点＞

「忠岡町外に転出したい又は転出する予定」と答えた人の、忠岡で取り組んでいる施策に対する重要度・満足度の回答は、最も重要度が高いものは「危機・防災・減災対策」、最も重要度が低いものは「農業・漁業」となっています。また、最も満足度が高いものは「消防・救急救命体制」、最も満足度が低いものは「子どもや若者の健全育成」となっています。一方、「子どもや若者の健全育成」や「生きる力を培う学校教育」といった項目は重要度がとても高く、満足度がとても低くなっています。さらに、重要度が高く満足度が低い項目に着目すると、「上下水道の充実」「生活・都市基盤」「計画的なまちづくりと良好な住宅」など生活環境整備に関する項目が全体と比べて挙げられています。

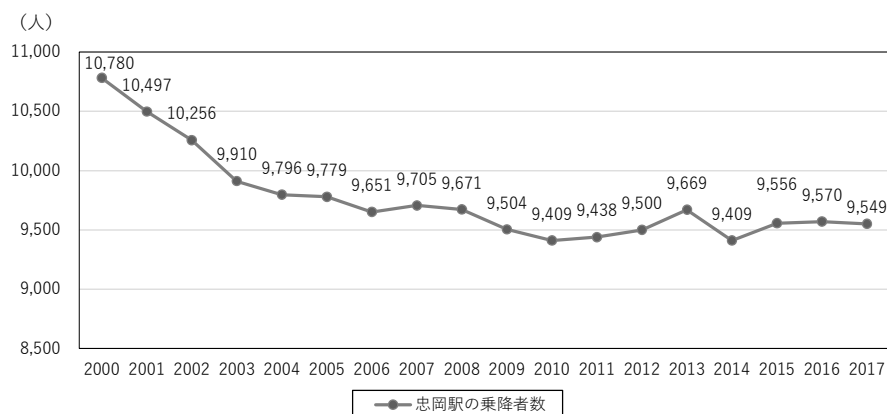
子どもたちの町に対する愛情を深める取組としては、「安全に通える通学路、防犯体制の整備」が47.9%、「豊かな人間性を育む取組」が44.2%、「地域ぐるみで子どもを見守る地域づくり」が43.9%と回答が多くなっています。

## 6 都市基盤

### (1) 忠岡駅の乗降者数

忠岡駅の一日の乗降者数は 9,549 人となっており（2017 年時点）、2000 年に比べると 11.4%の減少となります。

図表 忠岡駅の乗降者数



出典：大阪府統計年鑑

### (2) 駅前自転車駐輪場の利用状況

本町には4箇所の駐輪場があり、全てが町設置の駐輪場です。駐輪場には合計 700 台の収容能力がありますが、一方で、すでに収容可能台数を超える需要があり、駐輪場は足りない状況となっています。

図表 駅前自転車駐輪場の利用状況

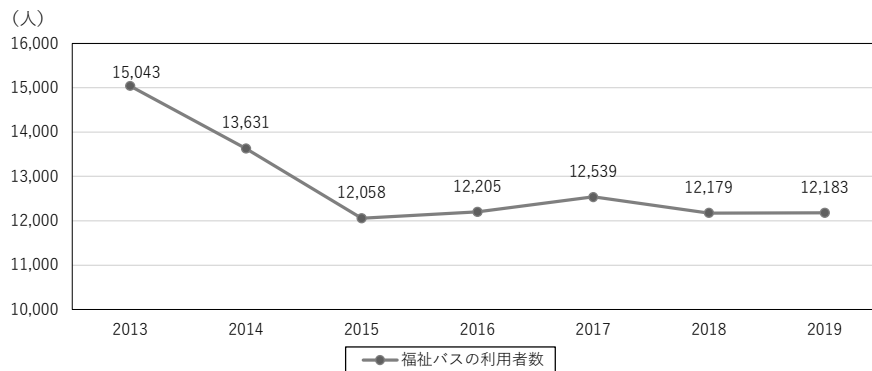
町営の駐輪場		
駐輪場数 (箇所)	収容能力台数 (台)	収納実台数 (台)
4	700	700

出典：大阪府都市整備部交通道路室道路環境課「駅周辺自転車駐車場等実態報告書」2017年（平成29年）11月

### (3) 福祉バスの利用状況

2019年の年間乗車人数は12,183人であり、1日平均乗車人数は50.8人となっています。2013年と比較すると、年間乗車人数は19.0%減少しています。

図表 福祉バスの利用状況



出典：忠岡町「事務報告」

### (4) 空き家等の実態

2016年時点で本町には122棟の空き家が存在し、過半数が住居、その約3割が長屋住宅・共同住宅となっています。

図表 空き家等の実態

用途	空き家数
戸建て住宅	69戸
長屋住宅	26棟
共同住宅	15棟
件用住宅	2戸
店舗	6戸
倉庫	1戸
工場	3戸
合計	122棟

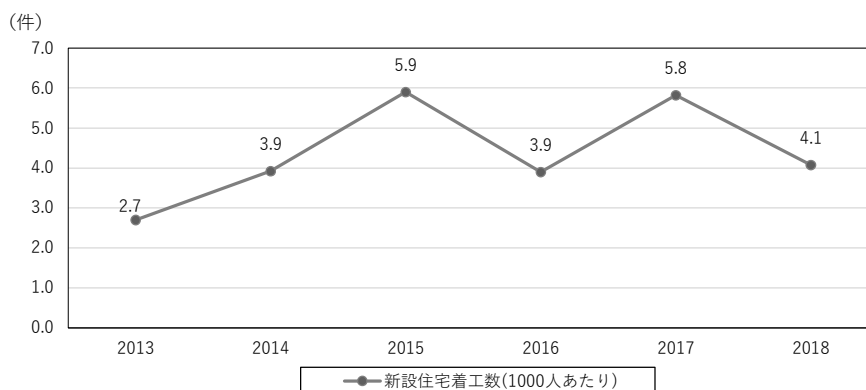
出典：忠岡町建設課「空き家実態調査」 2016年（平成28年）



## (5) 新設住宅着工数の推移

2018年の新設住宅着工数をみると、本町は1,000人あたり4.1件となっています。また、泉州地域全体の2013年から2018年にかけての6年平均着工数は5.6件であり、忠岡町は泉州地域全体の上から10番目の着工数となっています。

図表 新設住宅着工数の推移



出典：国土交通省「建築着工統計調査」

## (6) ごみの排出量

本町の1人1日あたりごみ排出量は948.4gとなっており、泉州地域では6番目に少なくなっています(2017年時点)。また、泉州地域全体の平均は965.8gとなっています。

図表 ごみの排出量

1人1日あたりごみ排出量	
忠岡町	泉州地域平均
948.4g	965.8g

出典：大阪府 環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課調べ

### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

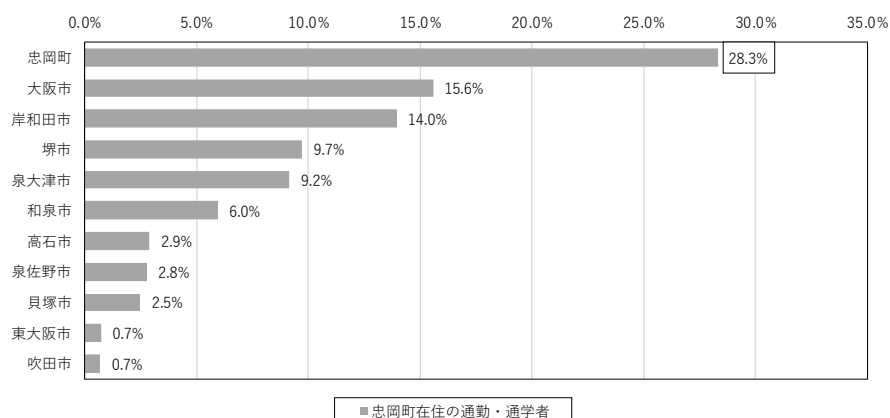
地域の活性化に向けて力を入れるべき取組では「空家に店舗を誘致するなど商店の活性化の取組」が最も多く37.6%となっています。次いで、「公共施設を活用した住民が気軽に交流できる空間・場所の整備」が29.8%、「公共交通の範囲拡大や本数の増加などによる利便性の向上」が29.5%となっています。

## 7 通勤・通学の状況

### (1) 忠岡町在住の通勤・通学者の通勤・通学先

本町に在住する人の通勤・通学先としては「忠岡町」が28.3%と最も多くなっています。次いで大阪市が15.6%、岸和田市が14.0%となっています。泉州地域以外では、東大阪市や吹田市へ通勤・通学する方も見られます。

図表 忠岡町在住の通勤・通学者の通勤・通学先 忠岡町と上位10か所

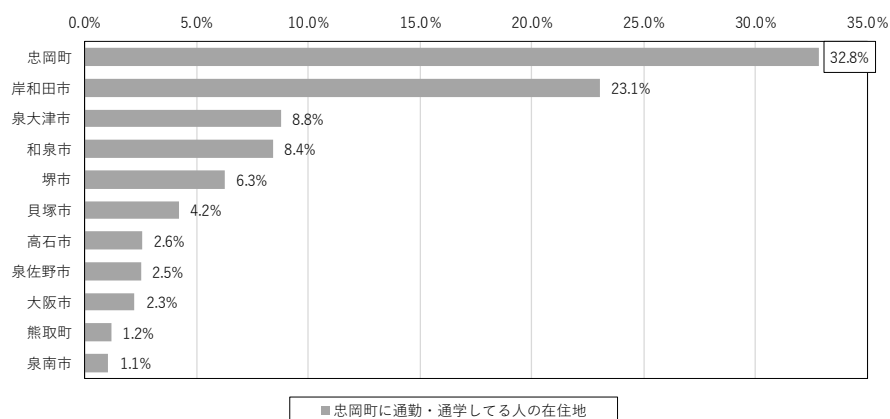


出典：総務省「国勢調査」 2015年（平成27年）

### (2) 忠岡町に通勤・通学してる人の居住地

本町に通勤・通学する人の居住地としては「忠岡町」が32.8%と最も多くなっています。次いで岸和田市が23.1%、泉大津市が8.8%となっています。泉州地域以外からの通勤・通学者として大阪市から通勤・通学する方が2.3%となっています。

図表 忠岡町に通勤・通学してる人の居住地 忠岡町と上位10か所



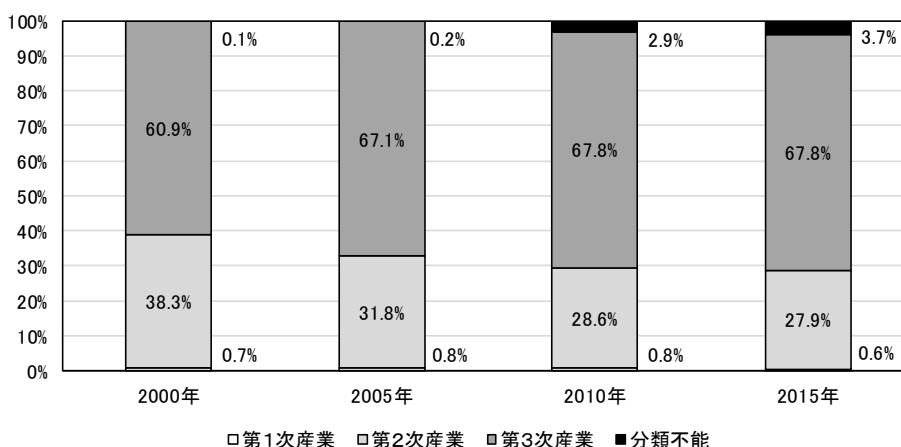
出典：総務省「国勢調査」 2015年（平成27年）

## 8 産業・商業の状況

### (1) 産業別就業者数の割合

産業別就業者数の割合を見ると、第1次産業の割合は1%未満となっており、第2次産業は2000年（平成12年）以降減少して2015年（平成27年）では27.9%、第3次産業は一貫して増加し2015年（平成27年）には67.8%となっています。

図表 産業別従業員割合

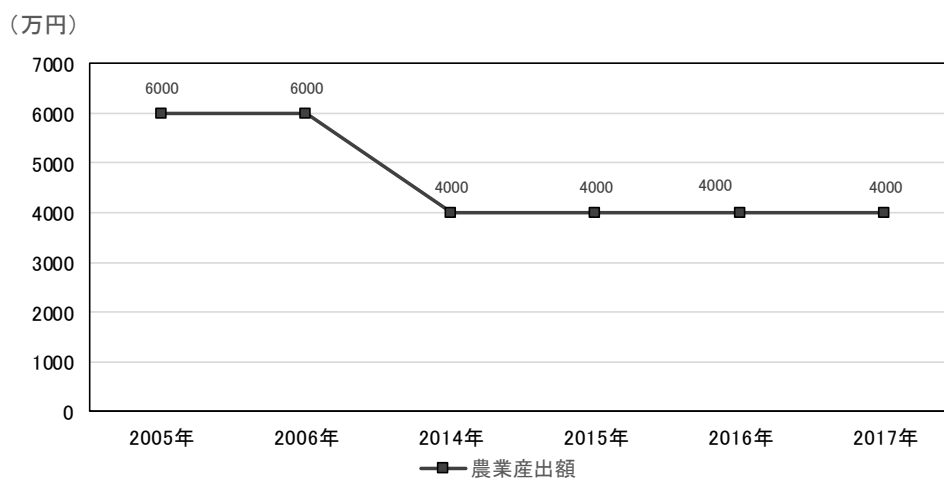


出典：総務省「国勢調査」

### (2) 農業産出額

農業算出額は、2014年（平成26年）以降4千万円で推移しています。

図表 農業産出額

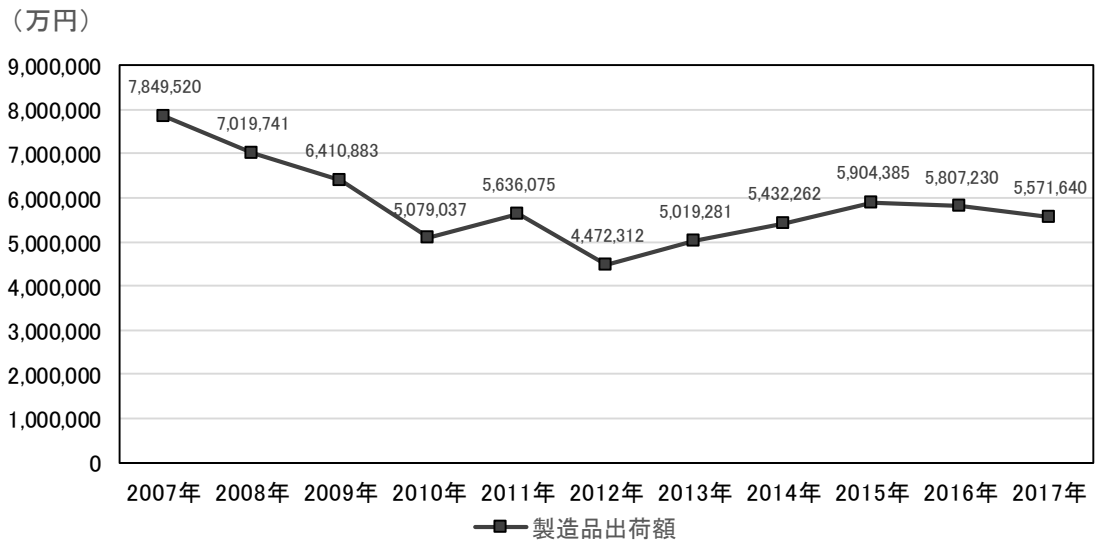


出典：農林水産省「生産農業所得統計」 2005年から2006年（平成17年から平成18年）  
「市町村別農業産出額」 2014年（平成26年）以降

### (3) 製造品出荷額

製造品出荷額は2007年(平成19年)の約785億円をピークに、2012年(平成24年)には約447億円まで減少しています。その後、増減を繰り返して500億円～600億円の間で推移し、2017年(平成29年)には約557億円となっています。

図表 製造品出荷額

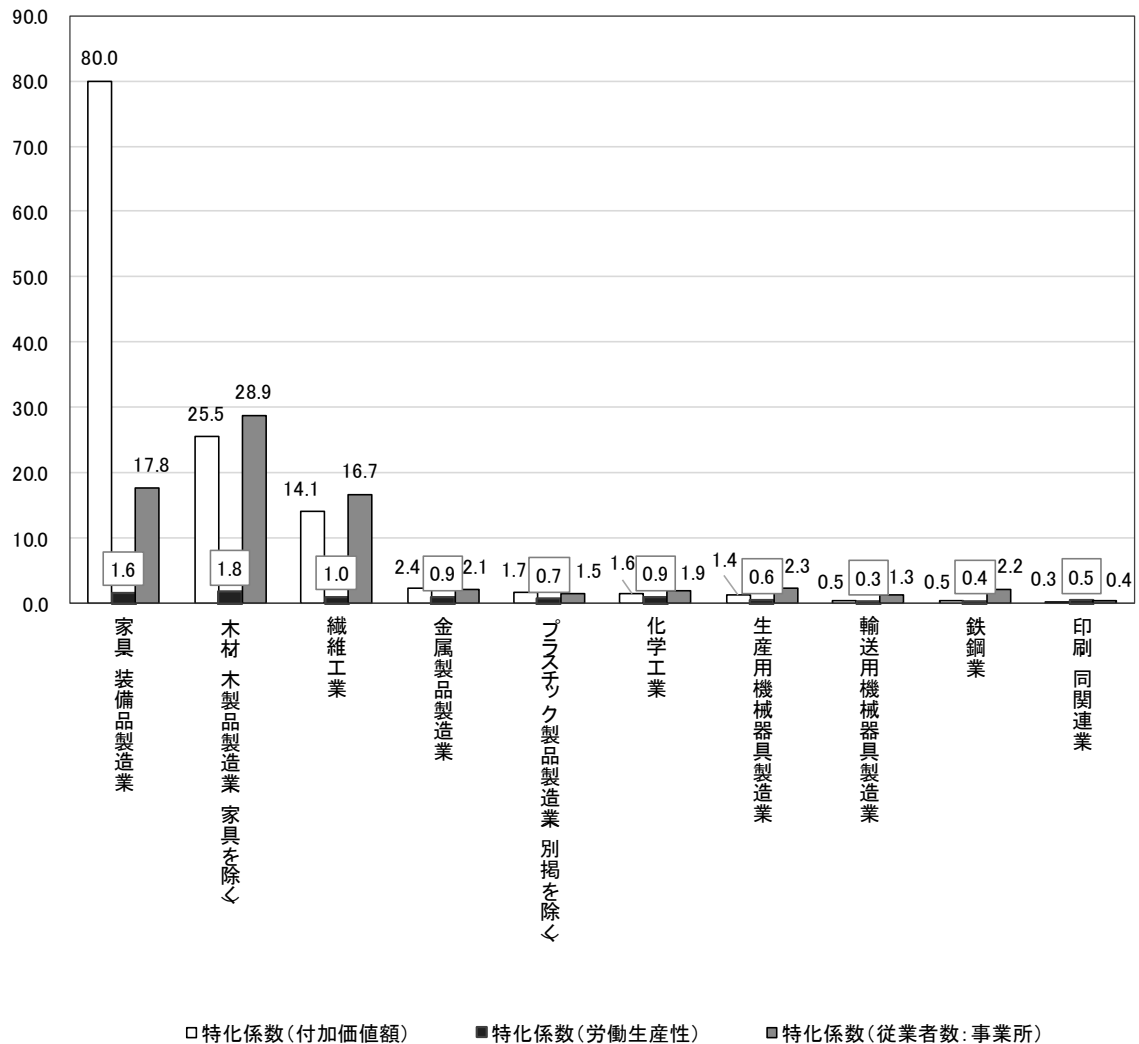


出典：経済産業省調査統計グループ「工業統計地域別統計表」

## (4) 製造業における労働生産性特化係数

製造業における労働生産性特化係数を見ると、木材・木製品製造業（家具を除く）が1.8と最も高く、次いで家具・装備品製造業が1.6、繊維工業が1.0となっています。

図表 製造業における労働生産性特化係数



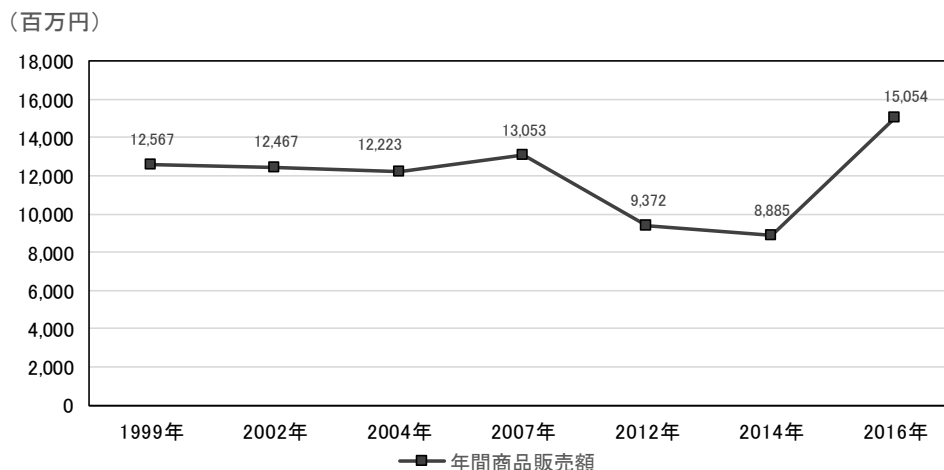
出典：経済産業省「RESAS」 2016年（平成28年）

※特化係数とは、域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。労働生産性は「付加価値額（企業単位）÷従業者数（企業単位）」で算出する。

## (5) 年間商品販売額

年間商品販売額（小売）を見ると、2007年（平成19年）の約130億円から減少し、2014年（平成26年）には約89億円となっています。2016年（平成28年）には増加に転じて、約150億円となっています。

図表 年間商品販売額（小売）



出典：経済産業省調査統計グループ「商業統計表産業編」

### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

事業所調査において、現在地で事業を営むにあたっての問題点は何ですかという設問に対して、「店舗数が少なく、商業地としての魅力が減退している」と回答した事業所が最も多く38.0%となっています。次いで、「周辺の人口が減少し、来店者数が少なくなっている」と「コンビニ、飲食店などの利便施設が近くにない」と答えた事業所が24.1%となっています。

また、社員等の獲得に関する課題は何ですかという設問に対して、「業界に対する若者の関心が薄く、募集を出しても応募が少ない」と回答した事業所が最も多く46.8%となっています。次いで、「会社が求める資格や実務経験などの要件を満たす人材が見つからない」と答えた事業所が26.6%、「採用した社員がなかなか定着しない」と答えた事業所が15.2%となっています。

## 9 子育て・教育

### (1) 幼児教育・保育提供施設

幼稚園は東忠岡幼稚園（町立）が、保育園は東忠岡保育所（町立）、認定こども園はチュールリップ保育園（私立）とピープル忠岡チャイルドスクール（私立）がそれぞれあります。

図表 待機児童の状況

時期	人数	内訳
2017年（平成29年） 4月1日時点	4人	（0歳児：4人）
2017年（平成29年） 10月1日時点	8人	（0歳児：4人、1歳児：3人、2歳児：1人）
2018年（平成30年） 4月1日時点	10人	（1歳児：9人、3歳児：1人）
2018年（平成30年） 9月1日時点	10人	（0歳児：1人、1歳児：9人）

#### <第6次忠岡町総合計画の策定に関する住民ワークショップの着目点>

ワークショップを通してでてきた、忠岡町の子育へのイメージについて、代表的なものを抜粋して掲載しています。

##### 【町の好きなところ】

育児がしやすい／幼保が充実／地域での子育てができる／子どもはゆったりしている

##### 【町の困っているところ】

子どもが少ない／学力が低い／子どもの遊ぶところが減っている／学童保育を強化してほしい

## (2) 教育施設の生徒数

本町に小学校は忠岡小学校、東忠岡小学校、中学校は忠岡中学校がそれぞれあります。

図表 教育施設の生徒数

(人)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
小学校(合計)	128	133	144	146	155	153

(人)	1年生	2年生	3年生
忠岡中学校	150	146	171

## (3) 教育水準

「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果概要」(忠岡町教育委員会)によると、小学校では国語・算数で全国・府平均より正答率が低い設問が見られています。中学校では国語・数学・英語で全国平均より正答率が低い設問が見られています。

### <第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点>

「子育て支援の充実」については、重要度・満足度共に平均を上回っていました。一方で、「生きる力を培う学校教育の推進」については、重要度が6.46と全37項目中で2番目に高くなっている一方で、満足度は-0.93と平均よりも低くなっていました。

こうした中で、子どもの教育に力を置くべき点としては、「礼儀作法や規範教育の推進」と「いじめや不登校に対する施策の推進」が最も多く40.5%となっています。次いで、「基礎学力を培う施策の推進」が33.3%となっています。



## 10 高齢者福祉

### (1) 周辺自治体の高齢者の状況

2015年(平成27年)時点では、本町の高齢化率は27.4%となっており、泉州地域の中でも3番目に高くなっています。

また、認定率においては20.8%と7番目、独居世帯率においては46.1%と4番目に高くなっています。

図表 周辺自治体の高齢者の状況

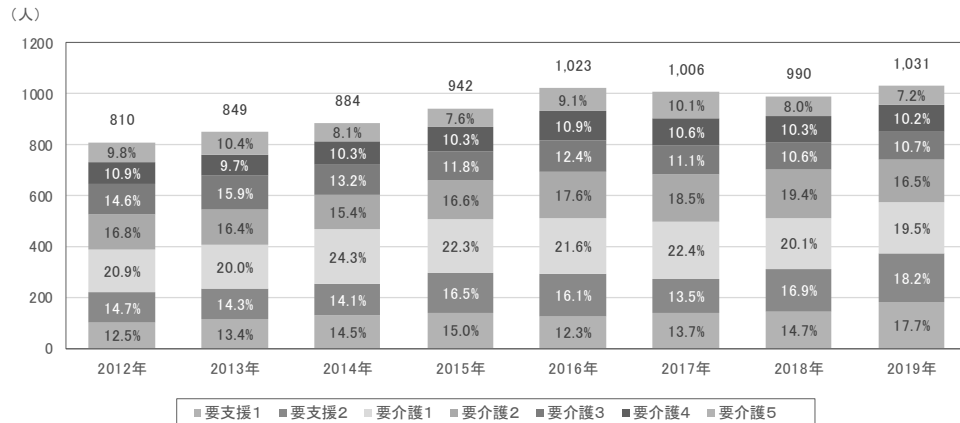
	岬町	阪南市	忠岡町	高石市	泉南市	堺市	岸和田市	熊取町	貝塚市	泉佐野市	泉大津市	田尻町	和泉市
高齢化率	36.3%	28.7%	27.4%	26.9%	26.9%	26.7%	25.8%	25.7%	24.8%	24.7%	23.7%	22.8%	22.6%
認定率	24.7%	19.4%	20.8%	22.1%	19.2%	23.5%	20.8%	18.3%	22.0%	22.5%	16.9%	21.4%	18.0%
独居世帯率	58.8%	48.8%	46.1%	44.0%	46.3%	42.1%	43.8%	42.4%	42.0%	39.0%	39.0%	33.3%	38.8%

出典：高齢化率及び独居世帯率は総務省「国勢調査」 2015年(平成27年)、  
認定率は厚生労働省「介護保険事業状況報告」 2019年(令和元年)

## (2) 要支援・要介護認定者の状況

2019年（平成31年）時点では、本町には1,031人の要支援・要介護認定者がいます。特に要介護1の高齢者数が多く、次いで要支援1・要支援2となっています。

図表 要支援・要介護認定者の推移



	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
総数	810	849	884	942	1,023	1,006	990	1,031
要支援1	101	114	128	141	126	138	146	183
要支援2	119	121	125	155	165	136	167	188
要介護1	169	170	215	210	221	225	199	201
要介護2	136	139	136	156	180	186	192	170
要介護3	118	135	117	111	127	112	105	110
要介護4	88	82	91	97	111	107	102	105
要介護5	79	88	72	72	93	102	79	74

出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告」 各年3月

### (3) 医療・介護施設等

本町の病院の数を他の自治体と比べると少なくなっています。

また、本町には養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設はありません。

図表 周辺自治体の医療等施設数

(個)	忠岡町	堺市	岸和田市	泉大津市	貝塚市	泉佐野市	和泉市	高石市	泉南市	阪南市	熊取町	田尻町	岬町
病院	1	44	17	4	9	12	14	5	7	3	2	0	1
一般診療所	14	736	143	68	59	83	119	51	37	42	36	8	10
歯科診療所	10	468	98	46	36	46	88	37	21	30	17	5	4
養護老人ホーム(一般)	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
経費老人ホーム(ケアハウス)	1	7	4	0	2	1	3	1	3	2	1	0	0
介護老人福祉施設	1	39	5	4	3	5	6	2	3	3	4	1	1
介護老人保健施設	0	19	3	1	2	4	7	2	2	1	2	0	2
介護療養型医療施設	0	2	2	0	1	1	3	1	1	0	0	0	0

出典：厚生労働省「医療施設調査・病院報告」及び「社会福祉施設等調査」 2017年(平成29年)

図表 周辺自治体の医療等施設数(1万人当たり)

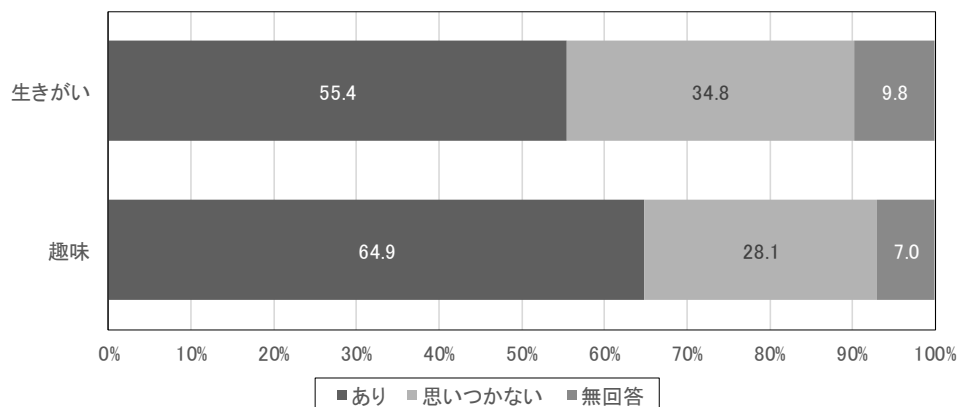
(個)	忠岡町	堺市	岸和田市	泉大津市	貝塚市	泉佐野市	和泉市	高石市	泉南市	阪南市	熊取町	田尻町	岬町	泉州地域
病院	0.58	0.53	0.87	0.53	1.03	1.19	0.75	0.86	1.13	0.55	0.46	0.00	0.63	0.68
一般診療所	8.16	8.79	7.32	9.09	6.78	8.24	6.40	8.81	5.95	7.70	8.22	9.08	6.32	8.07
歯科診療所	5.83	5.59	5.02	6.15	4.14	4.57	4.73	6.39	3.38	5.50	3.88	5.68	2.53	5.20
養護老人ホーム(一般)	0.00	0.02	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
経費老人ホーム(ケアハウス)	0.58	0.08	0.20	0.00	0.23	0.10	0.16	0.17	0.48	0.37	0.23	0.00	0.00	0.14
介護老人福祉施設	0.58	0.47	0.26	0.53	0.34	0.50	0.32	0.35	0.48	0.55	0.91	1.14	0.63	0.44
介護老人保健施設	0.00	0.23	0.15	0.13	0.23	0.40	0.38	0.35	0.32	0.18	0.46	0.00	1.26	0.26
介護療養型医療施設	0.00	0.02	0.10	0.00	0.11	0.10	0.16	0.17	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06

出典：厚生労働省「医療施設調査・病院報告」及び「社会福祉施設等調査」 2017年(平成29年)加工

### (4) 趣味・生きがい

一般高齢者(要支援及び要介護の認定を受けてない人、総合事業対象者ではない人)に対して趣味・生きがいの有無について質問したところ、生きがいがあると回答した人は55.4%、趣味があると回答した人は64.9%となっています。

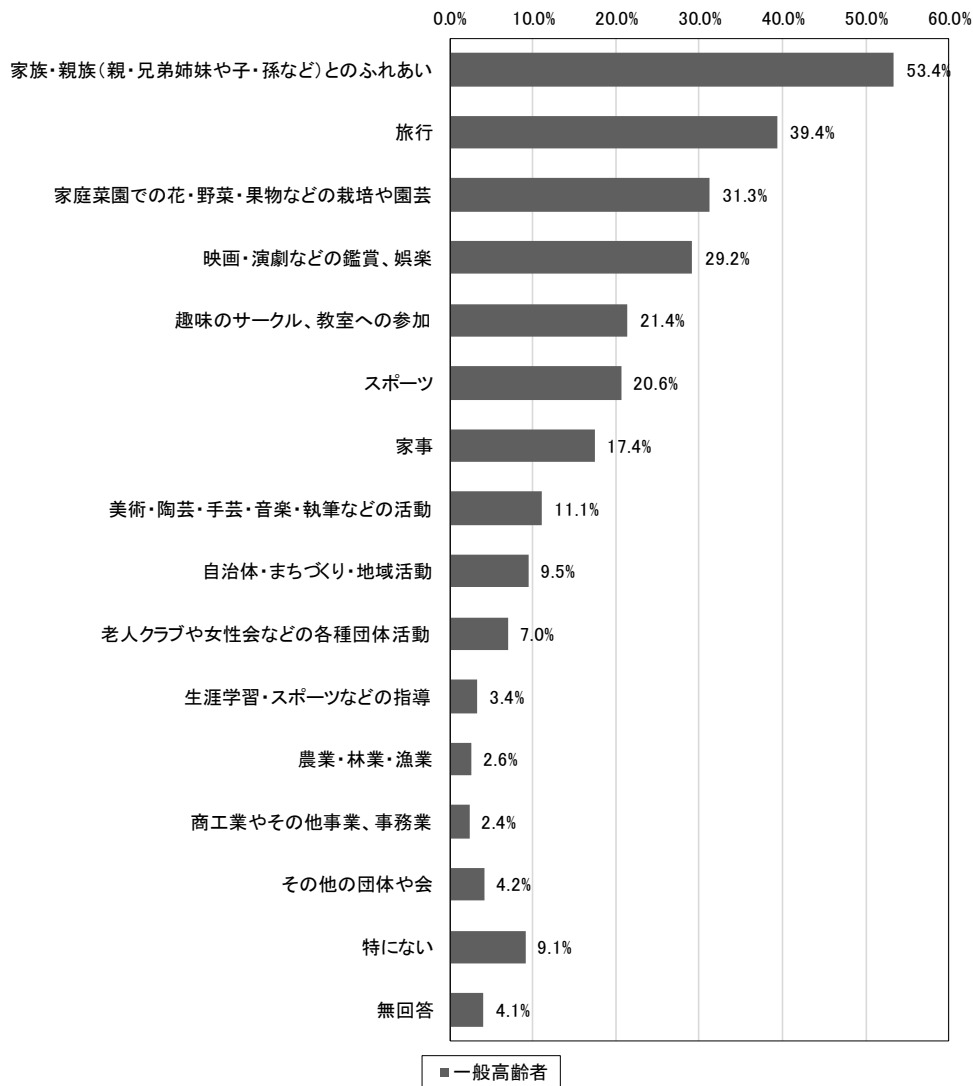
図表 一般高齢者の趣味・生きがいの有無



出典：忠岡町第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査 2017年(平成29年)

また、一般高齢者（要支援及び要介護の認定を受けてない人、総合事業対象者ではない人）に対して生きがいや元気を保つために必要なことやしてみたいことについて質問したところ、「家族・親族（親・兄弟姉妹や子・孫など）とのふれあい」が最も多く 53.4%となっています。

図 生きがいや元気を保つために必要なことやしてみたいこと



出典：忠岡町第8次高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査 2017年（平成29年）

＜第6次忠岡町総合計画の策定に係るアンケート調査結果の着目点＞

福祉施策について重点を置くべきことは何ですかという設問に対して、「幅広く相談できる相談窓口の充実」と回答した人が最も多く 29.8%となっています。次いで、「在宅福祉サービスの充実」と答えた方が 25.4%、「施設サービスの充実」と答えた方が 21.9%となっています。